

(7) 観光施設（宿泊、温泉、集客）

豊前市の主な宿泊施設は、ホテル 1 軒（HOTEL 築上館）、旅館 2 軒（求菩提温泉 ト仙の郷、割烹旅館 宇島汐湯）、民宿 1 軒（農家民宿 まんてん星）の計 4 軒があり、そのうちト仙の郷とまんてん星は求菩提山麓の篠瀬地区で、他の 2 軒は JR 宇島駅周辺の市街地で営業しています。また、市内にはト仙の郷を含む 4 つの入浴施設（豊前温泉 天狗の湯、畑冷泉館、汐湯の里（豊前市老人福祉センター）、求菩提温泉 ト仙の郷）があり、安らぎと寛ぎを提供しています。

さらに、四郎丸地区の国道 10 号沿いには、新鮮な農作物や海産物、多様な加工品などが揃う道の駅「豊前おこしかけ」があり、豊前観光の拠点施設として連日賑わいを見せるほか、付近にある豊前フルーツランドでは、いちごやぶどうなど四季折々のフルーツ狩りが楽しめます。さらに、平成 28 年（2016）には宇島地区の漁港前に、獲れたて魚介の直売所とレストラン併設した「うみてらす豊前」がオープンし、豊前海の魅力をもっと楽しめる施設として人気を集めています。



畑冷泉館

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動を行うグリーンツーリズムも行っています。宿泊する滞在型と日帰りで農作業等を体験する日帰り型があり、篠瀬地区のまんてん星は農家民泊を行っています。

(8) 公園

豊前市の主な公園として、天地山公園、平池公園、清原自然公園^{せいぼる}などがあります。天地山公園は約 20ha の広さと野外音楽堂などをもち、日本の都市公園 100 選に選ばれています。平池公園は市街地にあり桜祭りの会場となります。ホタルの里と名付けられた清原自然公園は、初夏にはホタル祭りが開催されています。

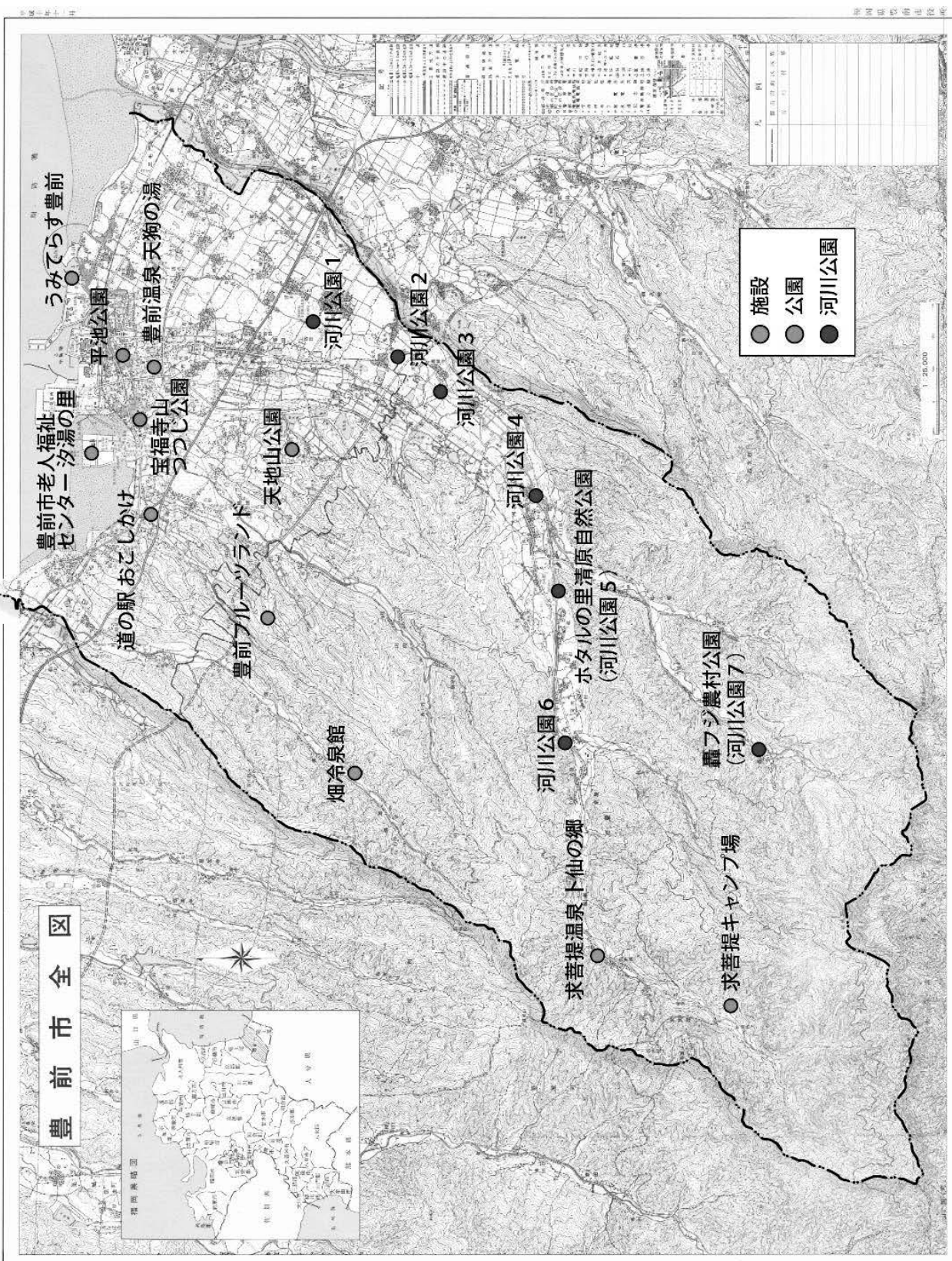
また、岩岳川沿いには、豊前病院付近から合岩小学校までの間に 6 つの河川公園が設置され、佐井川上流には、轟^{とどろ}フジ農村公園があります。



清原自然公園



轟フジ農村公園



【主な観光施設・公園】

（９）景観

豊前市の南部には、犬ヶ岳、求菩提山をはじめとする緑豊かな山々が連なり、北は周防灘に面しています。山から海へ向かって岩岳川をはじめ河川が流れ、市域の北部は広い平野となっています。

このような自然地形の特徴を活かして、谷筋の斜面地や丘陵地では果樹や茶が栽培され、谷あいや平地には水田地帯の中に農村集落が点在する田園風景が広がっています。

南西部の山地は、火山岩特有の奇岩と山岳信仰とがあいまって中世以降は豊前市のシンボルである求菩提山を中心に修験道場として栄えた歴史を有し、今もその遺構が残り、周辺の棚田などの農村景観と一体となった文化的な景観が見られます。

海沿いには、古くは古代の官道から近世の中津街道などの豊後国へつながる交通路がとおり、宿場町や街道沿いには民家も建ち並び、宇島港も築港されました。

また、近代以降は鉄道の開通や宇島港の拡充などによって商業や工業化も進み、宇島駅周辺の商業地や海沿いの発電所をはじめとする工業地帯があります。

以上のように、豊前市の豊かな自然から景観は大きく分けて４つの景域に分けられ、それぞれの特徴を示しています。

<４つの景域>

①山と谷筋の景域

耶馬日田彦山国定公園エリアを基点に周防灘へと下る山稜は、九州でも有数の長大な距離を誇る地形で豊前市域の特徴的な景観です。また、豊前修験道の主要な修験の山である求菩提山を中心とした特徴的な山容と、谷筋に残された八幡信仰の宗教文化を伝える神社等の建造物群は自然景観と相俟って信仰の歴史を醸し出す景観です。



②里の景域

重要文化的景観である「求菩提の農村景観」は日本の原風景そのもので、農林業に生きてきた人々の生活文化を今に伝えます。そして里に営まれた集落には今も鎮守の森が息づき、伝統芸能である「豊前神楽」が里の景観を演出します。



③街道の景域

古く官道として宇佐への往来を担った路は、近世の街道へとつながりその沿線に在郷町として伝統的な町並みを形成しました。今もその面影は落ち着いた景観を形成しており、街道から見渡すことのできる広大な周防灘の干潟と相俟って、古の情景を呼び覚まします。



④港と近代化の景域

江戸時代に造られた港は当時の町並みを今に伝え、街道と共に港町独特の景観を形成しています。明治時代以降、港は近代化と共に発展し工業化と共に地域経済発展の礎となり、近代化に伴う交通の発達と共に特徴的な景観を残しています。



(10) 特産品

豊前市には、海の幸、山の幸、里の幸がそろっています。

・豊前海一粒かき

山からのミネラルが注ぐ豊前海の栄養をたっぷりと含んだかきは、甘く濃厚な味わいと実入りの良さが人気の秘密です。

・豊前本ガニ（ワタリガニ）

豊前海で漁獲され、特に実入りの良いワタリガニだけに与えられる称号が「豊前本ガニ」です。遠浅で広大な干潟の海が育てたワタリガニならではの濃厚な旨みと豊かな甘みが特徴です。



一粒かき



ワタリガニ

・豊前棚田ゆず

冷涼な山間部の棚田で育てられた豊前棚田ゆずは、豊前を代表する果実であり、香りが豊かで、柚子胡椒、みそ漬け、かるかん饅頭、マーマレードなどの加工品にも利用されています。

・豊前茶

日本のお茶の歴史は臨済僧の栄西が 12 世紀の末に中国から持ち帰った茶樹を筑前の脊振山に植えたのが始まりと言われています。そのためお茶は修験道の山であった脊振山と交流のあった北部九州の修験道寺院に薬として伝えられたと考えられます。

求菩提山のお茶は、本山の聖護院や領主へ進物として贈られており、茶人大名として有名な細川忠興からも喜ばれたことが残された礼状から分かります。

・イチジク（とよみつひめ・蓬萊柿）

「とよみつひめ」は福岡県オリジナルの品種です。果実の張りと豊かな甘み、そして熟しても大きく割れない特徴が消費者に好評です。また、「蓬萊柿」はプチプチした食感が楽しめるほか、ジャムなどに加工されています。



棚田ゆず



豊前茶

- ・イチゴ（あまおう）

あかい、まるい、おおきい、うまい、と 4 拍子そろった福岡県限定のブランドイチゴがあまおうです。大粒で糖度が高く、色つやがよく、酸味が絶妙なバランスを持っています。

- ・ミカン

海に面した気候を活かしたミカンの栽培が特徴です。「はるみ」「はれひめ」「なつみ」などの品種が人気です。

3. 豊前市の歴史的環境

【原始・古代】

豊前市で最初に人類の足跡を認めることが出来るのは、後期旧石器時代（約 28,000 年前）のことです。荒堀大保遺跡のナイフ形石器はその特徴から A T 火山灰（約 26,000～29,000 年前）上位に位置づけられるもので、市域の考古学遺物の中では最も古いものです。その後、薬師寺塚原遺跡から発見された「三稜尖頭器」や青畑向原遺跡の剥片尖頭器などが約 24,000 年前の所産と考えられます。さらに後期旧石器時代終末期（約 18,000 年前）のナイフ型石器、細石器の段階では青畑向原遺跡、小石原泉遺跡などの例があげられますが、これらは何れも断片的な資料であり、構造的に遺跡を捉えることは出来ません。

縄文時代に入ると、早期（約 8,000 年前）の段階で押型文土器を伴う吉木常末遺跡が営まれます。楕円押型文を主体とした段階のもので、この他にも数箇所です断片的な資料を認めることが出来ます。その後前期（約 6,000 年前）、中期（約 5,000 年前）の時期についても土器の存在は知られますが、何れも明確な遺構を伴わないことから詳細な部分は言及できません。

こうした考証が可能となるのは後期（約 4,500 年前）の段階で、挾間宮ノ下遺跡では 16 軒の竪穴式住居とともに大量の資料が検出されました。時期は出土した土器や竪穴式住居の構造上の特徴などから、後期中葉（約 3,000 年前）と考えられ、3 期にわたる集落の変遷が想定できます。なお、中村石丸遺跡からは九州でも珍しい異形高杯が出土しており興味深いところです。晩期（約 3,300 年前）の資料としては多くを知ることはできませんが、河原田塔田遺跡で竪穴式住居が、また、永久笠田遺跡で包含層から良好な資料が得られています。

弥生時代に入り古い段階での報告は多くありませんが前期末～中期初頭（約 2,300 年前）にかけて良好な資料が得られています。河原田善丸遺跡からは土坑に伴い鉢形土器が出土し、河原田塔田遺跡からは土壇墓から銅戈、祭祀遺構から壺などが出土しています。さらに鬼木四反田遺跡からは銅鏃、銅製鉋などが出土しており、ここからは後期初頭（約 2,000 年前）と見られる小型の銅鏡（蕨手状渦文鏡）なども出土しています。こうした状況は明らかに政治勢力の台頭を示すものであり、旧上毛郡形成の黎明期といえます。この鬼木四反田遺跡は中期中葉（約 2,100 年前）から後期（約 2,000 年前）にかけての拠点集落と考えられ、竪穴式住居 36 軒、貯蔵穴 200 基以上を検出しています。こうした集落は佐井川中流域を中心に形成される特徴を有し、その後、下流域に移り後期後半～終末（約 1,700 年前）にかけての拠点集落である小石原泉遺跡へと繋がってゆきます。

小石原泉遺跡は後背湿地を有する微高地に営まれ、200 軒以上の竪穴式住居が検出されました。佐井川中流域で芽生えた拠点集落はさらに大規模化し、「漢書地理志」にみるクニを髣髴とさせる弥生時代集落が佐井川下流域に出現したのです。



小石原泉遺跡（豊前市史より）

ここではさらに古墳時代から平安時代後期に至るまで営々と集落が営まれますが、同時に律令制施行前夜には炊江郷の推定地である大村天神林遺跡、大村石畑遺跡などでその拠点となる遺跡が見られ、この頃の旧下毛郡内での様子が推定できるようになります。さらに大村石畑遺跡では8世紀代の銚帯（かたい）が、荒堀大保遺跡では円面硯が出土するなど周辺に官道に関連する施設の存在を予想させます。そして、佐井川を挟んだ東岸には大ノ瀬官衙（大ノ瀬下大坪遺跡）が設置され、律令体制の中、上毛郡の成立を見ることができます。

その後、垂水廃寺の建立、上毛条里の施行など古代国家成立の中、体制の整備が進められてゆきます。この時期、上毛郡に特徴的なのは大宝2年（702）の正倉院戸籍帳に明らかなように渡来系住人の多いことで、こうした様子は、壁付煙道（いわゆるオンドル状）遺構を持つ住居跡が多く見られるなど6世紀代の遺跡の特徴からも窺い知ることが出来ます。こうした事実がその後の本地域の変遷にどのように影響し、豊前修験道の成立にどのような役割を果たしたのか現段階では明確には出来ませんが、前提としてこのような歴史的背景を十分承知しておくことは重要だと考えられます。

平安時代の本地域の様子は必ずしも明確ではありませんが、文献、考古学資料の面で見れば、先の小石原泉遺跡では地鎮祭祀遺構と共に条里遺構に沿う形での居館が確認されまた、荒堀車地遺跡や、大村石畑遺跡などでも方形に区画された居館が発見されました。さらに小石原泉遺跡では龍泉窯系の青磁、白磁に刀、鏡（和鏡）などが伴う土壇墓がまとまって発見されるなど、中世社会に台頭してくる在地領主層の姿の一端を垣間見ることが出来ます。



荒堀車地遺跡（豊前市史より）

【中世】

一方、『宇佐神宮領大鏡』には11世紀前半の角田荘成立に関する記述が見られ、『弥勒寺所領注文』には「山田荘ならびに佐留尾別符百廿町」と記されるなど、宇佐神宮の強い影響下にあったことが知られます。また、宇佐の『永弘文書』や中津の『湯屋文書』の記述によれば、豊前国の惣田数13,300町のうち公領は1,686町で、荘園制がかなり進行していたことが伺えます。このうち「角田荘」は各地に散らばっていた宇佐神宮領を長元4年（1031）の宇佐宮の式年造営に際し1ヵ所にまとめ成立したものであり、現在の築上郡築上町上り松（椎田）を西の四至とし、豊前市松江付近を東の四至としていたと考えられています。一方「山田荘」宇佐弥勒寺の荘園として知られ『築上郡史』によれば現在の豊前市山田、千束、



大富神社の棟札（室町から江戸時代にかけての社殿造営記録）

横武、合河、岩屋を含む地域とされますが、確実な史料はありません。ただ、「山田荘」の鎮守社として大富神社が勧請されたことは、大富神社の中殿の祭神が応神天皇・仲哀天皇・神功皇后という所謂、八幡神であることからすれば想像に難くないところです。

こうした時代の豊前市域を知るうえで、ひとつのメルクマーク（目印・指標）となるのが平安時代末期から次第に台頭して来た武士の動きです。まず注目されるのが、在地の地頭と称していた大蔵種人とその子板井種遠で、もともと大蔵一族は代々大宰府の付官を務めていて、種人の兄種平を首領とし北部九州の広い範囲にわたって活動をしていました。その本拠は岩門城（現在的那珂川市）で、種人の弟の窪九郎太夫種真は、現在の京都郡みやこ町勝山久保にまた、同じく西郷十郎種連は行橋市西郷に拠点を置き、その子孫には坂本・臼田（築上郡築上町）、青木・塔田（豊前市）、高瀬（行橋市）、黒水（中津市）などの名字を名乗る人々が見えます。こうした事実は大蔵一族の豊前国における勢力を示すものですが、その終焉は早く、源平の争乱に際し平氏方について大蔵一族は、その所領を没収され豊前での勢力を失うこととなります。

この大蔵一族の後を受け、鎌倉幕府が九州統治のため送り込んだ関東御家人のうち豊前地域に勢力を持ったのが宇都宮一族です。『宇都宮文書』によればその主である宇都宮信房を中心に、その兄弟として筑前山鹿氏の祖となった家政、同じく重房（下毛郡野仲氏）、政房（上毛郡山田氏）、業政（仲津郡西郷氏）、興房（下毛郡深水氏）、直房（上毛郡広津氏）さらに信房の子として信政（上毛郡如法寺氏）、家信（上毛郡八屋氏）などが知られ、正に豊前地域を席卷したと言えます。

他方、鎌倉幕府から豊前国の守護職を与えられたのは少弐氏（武藤氏）で、弘安2年（1279）には北条氏が守護職を任じられています。こうした流れは宇都宮一族が豊前地域では大きな勢力を誇りながら、鎌倉幕府の九州支配の中では後塵を拝していたことを示すもので、宇都宮氏の急速な在地化の要因として捉えることができます。

さて、鎌倉時代の大きな出来事として「元寇」を上げることができますが、文永の役で危機感を募らせた幕府は九州の御家人に元寇防塁の設置を行わせ、豊前の御家人は怡土郡の青木横浜を担当することとなります。そして、弘安の役も大型台風の襲来という幸運に恵まれ凌いだものの、幕府にとってこの異国の脅威は益々の深刻なものとなり、同時に文永・弘安の役に対する恩賞の配分も、幕府の頭を悩ませることとなります。こうした政治情勢の中、北条氏の執権政治の確立の過程で生じた政治情勢の変化は、少弐氏の勢力を豊前国から削ぐこととなり、宇都宮一族は一時勢力をとりかえし豊前支配を強めて行きます。しかし後醍醐天皇による天皇親政への回帰は、再び少弐氏を守護職へと導き、鎌倉幕府の崩壊とともに豊前宇都宮氏はその勢力を縮小して行くのでした。

一方足利尊氏に従い反旗を翻した少弐頼尚ら豊前の武士たちは、上洛し転戦を重ねる中で次第に変容し、やがて土着化への道を辿ってゆきます。時に南北朝という動乱の時代でした。

その後、室町時代の豊前地域を支配するのは、中国地方に勢力をもっていた大内一族です。康暦2年（1380）には大内義弘が豊前の守護職に任命されたと考えられており、以後、豊後国守護職であった大友氏との争乱の時期を除けば、戦国時代に至るまで大内氏による豊前の領国支配は続き、最終的にその勢力は筑前国を含む北部九州を席卷していたと言えます。しかし弘治2年（1556）、大内一族は大内義隆の自害事件に端を発した内紛がおこり、これに乗じた毛利元就により滅ぼされることとなり、ここに大内氏による豊前の領国支配は終わりを告げます。

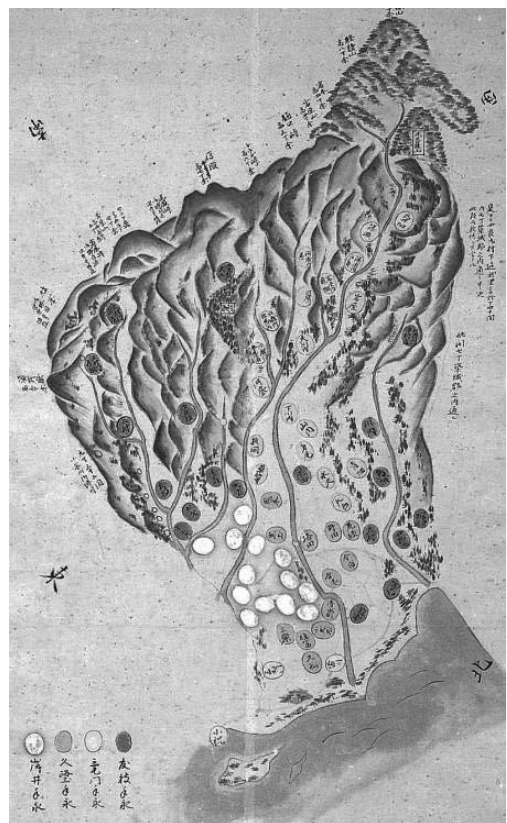
この大内氏の後をねらって、豊前へ進出の足掛かりを探っていたのが豊後国の大友氏でした。大友氏はそれまでも、大内氏との対立を通じて機をうかがっていましたが果たせず、大内氏亡き後、豊前の有力な勢力が毛利側についたのを機に佐田氏を中心として宇佐郡衆にその一掃を命じます。対する山田氏、仲八屋氏、如法寺氏などは山田城に籠もり抵抗しますがついに落城。この後の落人狩を含めた犠牲者は『永弘文書』によれば上毛郡の男女4分の1（約800人）と言われ“アハレナル事”と記されています。豊前の歴史上まれに見る悲劇でした。この事件を境として大友氏の豊前支配は確固たるものとなり、永禄2年（1559）大友義鎮は豊前・筑前の守護となります。しかし戦国の世はこうした領国支配を長く続けさせる事なく、永禄9年（1566）には再び毛利氏が豊前に勢力を伸ばし、逆に大友宗麟は大内輝弘をたてて周防に攻撃を仕掛けるなど、まさに動乱の戦国絵巻が繰り広げられることとなります。天正9年（1578）、耳川（日向）の戦いで島津氏に敗れた大友宗麟は、急速にその勢力を失い、これに乗じて豊前では野仲鎮兼（下毛郡）の動きが活発になってきます。さらに天正9年（1580）には筑前秋月氏が豊前に攻め入りますが、豊臣秀吉による「九州下向」は目前に迫っていたのです。

【近世】

天正15年（1587）、豊臣秀吉は島津氏の制圧を最後に九州の大名配置を行い、豊前六郡の領主として黒田孝高が入部します。ここに近世社会の幕開けが告げられることとなり、黒田氏にとって旧来からの勢力である宇都宮一族の存在は看過し難いものでした。黒田氏は領内の検地を実施するかたわら、こうした豊前の旧勢力を駆逐する戦いを繰り広げます。

慶長5年（1600）、筑前国へ転封された黒田氏のあとに、細川忠興が豊前一国と豊後二郡の領主として入国します。忠興は小倉城を大規模な城として改造し、城下町の整備を進め本格的な領国経営を開始するかたわら、祇園祭を始めるなど様々な面で豊前国の近世社会の基礎を固めてゆきます。しかし、時代は徳川幕府の全国支配へと大きく動き始めており、外様大名であった細川氏が古来九州の要衝の地であった豊前国に安堵できる由もありませんでした。

寛永9年（1632）、譜代大名小笠原一族が細川氏の領地を3分割する形で転封され、上毛郡は忠真（小倉藩）と長次（中津藩）により分割統治されることとなります。その中で、寛文11年（1671）、小倉藩は築城郡内の22ヶ村を分封（藩主忠雄の弟真方へ分封。一万石。）して新田藩として位置づけます。さらに貞享2年（1685）には上毛郡内26ヶ村（現在の豊前市東部と築上郡の一部）と交換し、小笠原真方がその支配を行うようになります。真方は小倉城篠崎口門近くに居を構えたことから“篠崎侯”とも呼ばれ、通常は領地内に居せず家老や領内の統治を担当する郡代などほとんどが小倉本藩のものが代理をしていたようで、所謂小倉藩の支藩ではなく分家として成立



小倉藩上毛郡絵図（豊前市史より）

したものでした。従ってその領国経営は不明な点が多く、藩主自身の領地見分など、ひどいときには100年ちかくも行われなかった例もあります。こうした状態は明治2年(1869)、小倉藩が長州戦争に敗れ香春から豊津へと拠点を移す過程で成立した千束藩まで続き、終始独立した藩としての体裁をなすことはありませんでした。そして皮肉にも、篠崎侯が唯一歴史の舞台に立つのは、この時幼少であった藩主豊千代丸の後見人としての小笠原貞正のみで、現在千束藩の藩邸跡は旭城として石垣が残されていますが、城としての機能は備わっておらず、明治4年(1871)の廃藩置県により、築城後1年足らずで廃城となります。日本で最後に築かれ、また最も短命な城と言われる所以です。



旭城跡の石垣

【近・現代】

明治4年(1871)廃藩置県により上毛郡一帯は千束県となり同年小倉県、明治9年(1876)には福岡県が成立し、明治21年(1888)には現在の地域区分が確立します。明治30年(1897)には豊州鉄道が営業を開始し松江と宇島に駅が開設されます。また文政8年(1825)に築港された宇島港は商業港として発展し、関西への石炭の積出港として活気をもたらします。その後大正3年(1914)には宇島鉄道が開業し、耶馬溪からの坑木を筑豊に供給する大動脈となりました。こうした交通の発達には宇島を中心に工業の立地を促し地域発展の礎を築いてゆきます。

昭和30年(1955)には昭和の大合併で9ヶ町村が合併し(宇島町と八屋町は昭和10年に合併)人口37,816人の豊前市が誕生します。余談ですが豊前市誕生に先立ちその過程で宇島市が成立しますが、僅か3日で豊前市と変更されます。諸般の事情によるものですが、全国で最も短命の市といわれています。その後、豊前市では宇島地先の埋め立てや九州電力豊前発電所の建設、能徳工業団地や豊前東部工業団地の造成など工業化を進めますが、地方での過疎化と少子化が進行する中、人口は減少の一途をたどり現在の人口は25,986人(平成30年2月1日現在)です。

平成28年(2016)に地域の悲願であった東九州自動車道が開通し今後、地域の特長を活かした活性化の推進が求められています。その方策の一つとして本計画の中で特定された歴史遺産を地域の歴史資源として位置づけ、その情報を行政と住民が共有することでこれからの活用へと繋げることが求められています。



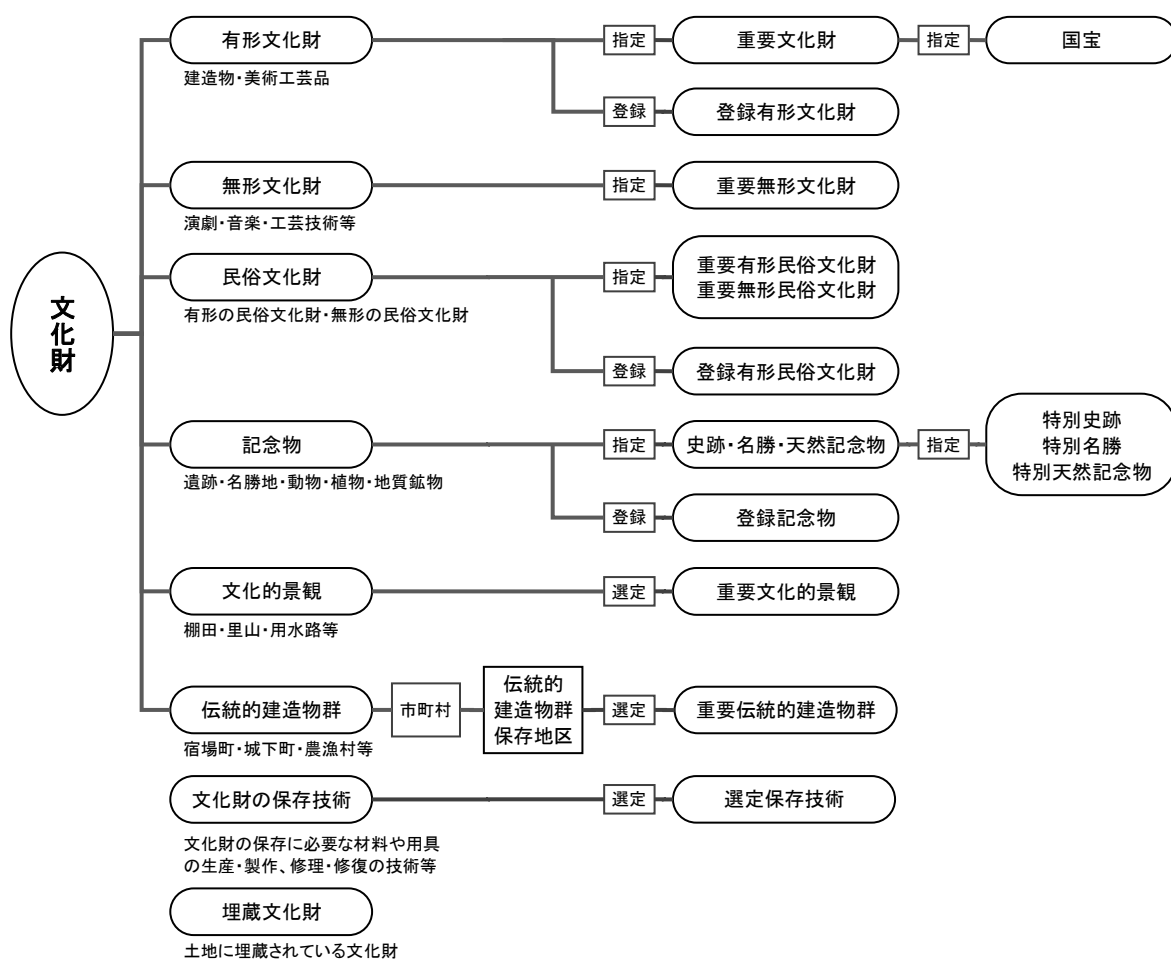
豊前市の旧9町村の位置図

3章 豊前市の歴史文化の特徴

1. 文化財の種類

文化財の種類については文化財保護法で、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群の6種類が規定されています。また、文化財の保存技術や埋蔵文化財についても保護の対象としています。

これらの中で特に重要な文化財については、国及び地方公共団体（都道府県及び市町村）により指定、登録、選定が行われ、保存・保存の措置が講じられています。



【国による文化財の体系】

指定等

文部科学大臣が文化審議会への諮問を経て、文化財のうち重要なものを指定・選定・登録

保存

- ・文化財保護法に基づく現状変更等の規制
- ・管理や修理に関する指導
- ・文化財補助金や課税上の特例措置など

活用

- ・展覧会等による文化財の鑑賞機会の充実
- ・史跡等をわかりやすくするための整備事業 など

2. 文化財調査の概要

豊前市で本格的な文化財調査が実施されたのは昭和 40 年(1965)で、求菩提地区における緊急民俗調査でした。それ以前にも「築上郡史」をはじめ、先学諸氏による様々な調査、研究の成果がみられ、貴重な資料として豊前市における文化財保護の礎となっています。

その後、豊前市のシンボルである「求菩提山」を対象とした調査研究が中心的となり、その集大成として「豊前求菩提山修験文化攷」が昭和 44 年(1969)にまとめられ、今なお求菩提山研究の基礎資料として周知されています。

昭和 60 年(1985)以降、豊前市では本格的な農業基盤整備事業がスタートし、それに伴い埋蔵文化財発掘の必要性が生じたため、文化財担当職員の配置が行われて以降、平成 28 年(2016)の東九州自動車道の開業まで多くの公共事業の実施に伴い埋蔵文化財の発掘調査が行われてきました。その成果は別表に示すとおりで、多くの知見を得ることができました。

一方、平成 3 年(1991)には「豊前市史」(上・下巻)が刊行され、併せて資料編(考古・文書編)も作成され、豊前市内の全ての文化財の内容が示されることとなりました。さらに、平成 13 年(2001)には史跡「求菩提山」が国の指定を受け、山麓をはじめ周辺地域は平成 24 年(2012)に「求菩提の農村景観」として国の重要文化的景観に選定されました。これに伴い求菩提地域においては保存活用に関する各種計画書が策定され、その推進が図られているところです。

こうした現在までの文化財調査の成果を踏まえ、今回、本構想の基礎資料として以下の視点からその整理を行うこととしました。併せて先述の埋蔵文化財発掘調査報告書の一覧と共に「豊前市文化財関係文献目録」を示し、現在までの調査成果を確認したいと思います。

指定文化財：国県市の指定文化財の指定状況をリスト化と位置の確認を行った。

神 社：市史に記載された神社の所在を確認するとともに、神社の位置と祭神、祭礼日、及び各神社に関連する指定文化財について整理した。

寺 院：市史に記載された寺院の所在を確認するとともに、寺院の宗派、本尊、及び各寺院に関連する指定文化財について整理した。

石 造 物：市史に記載された石造美術のリスト化と内容について整理を行った。

古 文 書：豊前市史文書資料等に掲載されたものの他、求菩提の近世文書等をまとめた。

伝承・民話：豊前市史に掲載された伝説の他、求菩提山周辺の調査を行った『豊前求菩提山修験文化攷』に記載されている伝説のリスト化を行った。

古 道：近世の街道や勅使道その他、街道から求菩提山へつながる求菩提道や修験者が修行のために使った峰入り道などを史跡図等から図化を行った。

民 家：近世の街道沿いに残る歴史的な建造物を外観から判断して位置の確認や写真撮影を行った。併せて町なみとしての調査も行った。

産 業 遺 産：遺跡分布図に示された鉄道跡と宇島港の旧防波堤の確認を行った。

表 豊前市文化財関係文献目録

年 代	書 名	著 者・編 者	備 考
1909	豊前求菩提山国魂神社蔵経筒	岡 為造	「考古界」8 篇 2 号
1926	築造時代の明らかなる経塚	島田寅次郎	「福岡県史跡名勝天然記念物調査報告書」第 2 輯
1933	求菩提山国玉神社	竹岡勝也	「福岡県史跡名勝天然記念物調査報告書」第 8 輯
1934	豊前求菩提山史	岡 為造	築上史談會
1954	求菩提山銅板経図像私考	市場直次郎	「考古学雑誌」四〇巻三号
1956	祭祀信仰関係の遺跡・遺物 築上郡史（上・下巻）	大場磐雄 豊前市・築上郡教育振興会	「図説日本文化史大系」第一巻
1966	求菩提	豊前市教育委員会	求菩提山民俗資料緊急調査報告書
1967	求菩提	豊前市教育委員会	求菩提山民俗資料緊急調査報告書 第二集
1969	豊前求菩提山修験文化攷	豊前市教育委員会	重松敏美
	秘境「求菩提」	重松敏美	九州人ブックス
	天狗の末裔たち	毎日新聞社	毎日新聞社
	求菩提山と周辺の美術	濱田 隆	
1970	祭祀遺蹟～神道考古学の基礎的研究～	大場磐雄	
1972	修験道史研究	和歌森太郎	東洋文庫 2 1 1
1975	山岳信仰の起源と修験道	和歌森太郎	「神と仏の間～日本人の宗教意識～」
1977	求菩提山修験道の起源とその展開	中野幡能	「英彦山と九州の修験道」
	総説・英彦山と九州の修験道	中野幡能	「英彦山と九州の修験道」
	西日本の石製経筒	小田富士雄	九州考古学研究・歴史時代篇
	我国発見の銅板経について	石田茂作	佛教考古学論巧三・経典編
1978	求菩提の美術	錦織亮介	豊前修験道・求菩提展
	英彦山・求菩提山仏教民俗資料調査報告	財）元興寺文化財研究所	
1979	研究紀要 1 ～特集・豊前修験道～	北九州市立歴史博物館編	
1980	求菩提如法寺旧蔵両界曼荼羅図	錦織亮介	西南地域史研究第四輯
1981	豊前市の文化財	豊前市教育委員会	指定文化財図録（1）
1983	豊前・求菩提山経筒の再発見	小田富士雄	「古代の求菩提山とその信仰」補遺一古文化談叢第 1 2 集
	如法寺	豊前市教育委員会	豊前市文化財調査報告書第四集
1984	修験の秘宝「求菩提」	求菩提資料館	展示図録
1986	山伏まんだら	重松敏美	NHK ブックス
1988	豊前市の文化財	豊前市教育委員会	指定文化財図録（2）
1989	求菩提山修験道遺跡	福岡県教育委員会	福岡県埋蔵文化財調査報告書第八十四集 福岡県教育委員会
	求菩提	求菩提資料館	展示図録
1991	豊前市史（上・下巻）	豊前市	通史
1993	豊前市史（考古資料編）	豊前市	通史
1997	求菩提山修験道遺跡群～史跡指定を前提とした整備基本構想の策定	豊前市教育委員会	計画書
2001	天狗たちの森 ～求菩提山と修験道～	恒遠俊輔	
2002	常設展示目録「求菩提資料館」	求菩提資料館	展示図録
	豊前市の文化財～歴史とロマンの散歩道～	豊前市教育委員会	指定文化財図録（3）
2003	史跡「求菩提山」整備基本計画	豊前市教育委員会	計画書
2006	市制五〇周年記念 ぶぜん 写真集	豊前市制五〇周年記念写真集編集委員会	写真集
	ぶぜんの祭り	豊前市制五〇周年記念事業実行委員会	調査報告書
	京築地区神楽関係史料調査	福岡県立図書館	調査報告書
2008	求菩提地区文化的景観調査報告	豊前市	計画書
2009	求菩提地区文化的景観保存計画	豊前市	計画書
	ぶぜんの神楽	求菩提資料館	調査報告書
2010	国指定史跡求菩提山保存管理計画書	豊前市教育委員会	計画書
2012	豊前神楽調査報告書～京築地域の神楽を中心として	福岡県文化財調査研究委員会	
2014	豊前市の文化財ガイドブック	豊前市教育委員会	指定文化財図録（4）
	天狗 山を駆ける	求菩提資料館	求菩提資料館開館四〇周年記念特別展 図録
2015	ふるさと豊前 人物再発見	求菩提資料館	「豊教だより」より再構成
2017	求菩提資料館のあゆみ	求菩提資料館	資料館年報合冊
	求菩提山 ～山伏の思いを伝えるタイムカプセル～	求菩提資料館	小学校高学年向け副読本

表 豊前市内埋蔵文化財関係発掘調査報告書一覧（１）

発行年	書 名	副書名	著者・発行元	備 考
1976	『福岡県遺跡等分布地図（豊前市・築上郡編）』		福岡県教育委員会	
1976	『求菩提山経塚』		豊前市教育委員会	
1977	『求菩提山第二次の調査』		豊前市教育委員会	
1977	「四郎丸窯跡」 米田鉄也		北九州市埋蔵文化財調査会『天観寺窯跡群』収録、『豊前市史（考古資料編）』にも記載	
1978	『求菩提山第三次の調査』		豊前市教育委員会	
1979	『黒部古墳群』	豊前市松江所在古墳群の調査	玄洋開発株式会社	
1983	『如法寺』	福岡県豊前市所在中世寺院の調査	福岡県求菩提資料館刊行会	豊前市文化財報告書第4集
1988	『大西遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第5集
1989	『古木遺跡』	京築教育事務所建設地遺跡	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第83集
1989	『求菩提山修験道遺跡』		福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第84集
1990	『県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-II- 豊前市横武・千束地区（2）』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第6集
1991	『県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-III- 豊前市横武・千束地区（3）』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第7集
1992	『荒堀雨久保遺跡』	豊前警察署庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第99集
1992	『求菩提』～詳細遺跡分布図～	福岡県豊前市所在の修験道遺跡詳細分布調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第8集
1994	『団後遺跡 西一町田遺跡 炭山遺跡』	福岡県豊前市所在遺跡の調査	福岡県教育委員会	一般国道10号線椎田道路関係埋蔵文化財調査報告第3集
1995	『三毛門放生田遺跡』	福岡県豊前市大字三毛門所在遺跡の発掘調査	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第121集
1996	『中村石丸遺跡』（上下巻）	福岡県豊前市大字中村字石丸所在縄紋時代遺跡の調査	福岡県教育委員会	一般国道10号線椎田道路関係埋蔵文化財調査報告第8集
1996	「新発見の縄文時代集落遺跡 豊前市大字川内所在の川内楠木遺跡について」 棚田昭仁・坂梨祐子		郷土文化誌『豊豊』第7号収録	
1997	『毘沙門遺跡』	県道国見松江線改良工事に伴う福岡県豊前市大字馬場所在遺跡の発掘調査	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第128集
1997	『今市向野遺跡C地点』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第9集
1998	『今市向野遺跡A・B地点』	都市計画街路事業県道市丸・八屋線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第10集
1998	『下原遺跡』	福岡県豊前市大字今市所在遺跡の発掘調査	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第134集
1998	『小石原泉遺跡』	豊前東部工業用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第11集
1999	『青畑向原遺跡・永久遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第12集／県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IV－豊前市大村・青畑地区及び黒土西部地区－
2000	『豊前市内遺跡分布地図』		豊前市教育委員会	
2000	『挟間宮ノ下遺跡（遺構編）』	－豊前市大字挟間に所在する縄文時代集落の調査報告－	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第13集／団体営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書I
2001	『挟間宮ノ下遺跡（遺物編）』	－豊前市大字挟間に所在する縄文時代集落の調査報告－	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第14集／団体営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II
2002	『河原田四ノ坪遺跡（河原田遺跡群I）・川内南原遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第15集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書V
2003	『河原田善丸遺跡（河原田遺跡群II）』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第16集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書VI
2003	『古木穴井遺跡』	都市計画道路甘木八屋線（県道犀川豊前線）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第17集
2003	『四郎丸米ヶ谷遺跡』	県営広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第18集
2003	『市丸城居屋敷遺跡・六郎堂ノ前遺跡・六郎神田遺跡・六郎桜木遺跡』	－豊前市市丸・六郎所在遺跡の調査－	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第179集

表 豊前市内埋蔵文化財関係発掘調査報告書一覧（２）

発行年	書 名	副書名	著者・発行元	備 考
2004	『河原田塔田遺跡（河原田遺跡群Ⅲ）』	県営農村活性化住環境整備事業 黒土西部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第19集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ
2005	『鬼木四反田遺跡（遺構編）（河原田遺跡群Ⅳ）・鳥越今井野遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業 黒土西部地区 及び 県営担い手育成基盤整備事業 山田地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第20集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ
2005	『吉木白木遺跡』	県立青豊高等学校特別教室棟建設関係埋蔵文化財発掘調査報告書 一豊前市吉木所在遺跡の調査一	福岡県教育委員会	福岡県文化財調査報告書第199集
2006	『鬼木四反田遺跡（遺物編）（河原田遺跡群Ⅴ）』	県営農村活性化住環境整備事業 黒土西部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第21集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ
2007	『大村石畑遺跡』	県営担い手育成基盤整備事業 大村青畑地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第22集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ
2007	『中村山柿遺跡』	県営経営体育成基盤整備事業 角田中部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第23集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ
2008	『久路土六田遺跡・薬師寺塚原遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業 黒土西部地区 及び 黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第24集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅻ
2008	『史跡 求菩提山』	求菩提山護国寺	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第25集／求菩提山史跡整備事業に伴う文化財発掘調査報告書Ⅰ
2009	『大村天神林遺跡』	県営担い手育成基盤整備事業 大村青畑地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第26集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ
2010	『久路土鐘ヲ田遺跡 久路土芝掛遺跡 久路土高松遺跡』（※ヲは金扁に章）	県営農村活性化住環境整備事業 黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第27集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅣ
2011	『史跡 求菩提山』	求菩提山 安浄寺 杉谷参道	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第28集／史跡内容確認調査事業に伴う文化財発掘調査報告書Ⅱ
2011	『塔田琵琶田遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業 黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第29集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅤ
2012	『久路土幢遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業 黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第30集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅥ
2013	『鬼木鉾立遺跡・久路土樋掛遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業 黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第31集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅦ
2013	『国史跡 求菩提山』	求菩提山 北谷・中谷坊跡／鬼石坊	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第32集／史跡内容確認調査事業に伴う文化財発掘調査報告書Ⅲ
2013	『久路土芝掛遺跡・久路土高松遺跡』	一福岡県豊前市久路土所在 久路土芝掛遺跡2次・久路土高松遺跡2次調査の報告一	九州歴史資料館	福岡県文化財調査報告書第242集／県道犀川豊前線バイパス建設関係埋蔵文化財調査報告第1集
2014	『永久笠田遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業 黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第33集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅧ
2014	『大西遺跡・下大西遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第34集／東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ
2014	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-15-』	福岡県豊前市・築上郡築上町所在遺跡の調査	九州歴史資料館	
2015	『大河内林添遺跡・大河内庄屋敷遺跡・挟間栗原遺跡・下河内桃ノ木遺跡・下河内蔵手遺跡・下河内大地遺跡・下河内大水口遺跡・山内頭ナシ遺跡』	県営ほ場整備事業（担い手育成型）大河内地区・合河北部地区、県営中山間地域農村活性化総合整備事業 合河地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第35集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅨ
2015	『久路土芝掛遺跡 第4次調査・塔田キカス遺跡』	県道犀川豊前線バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第36集
2015	『西ノ原遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第37集／東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ
2015	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-21- 福岡県豊前市所在の遺跡 鳥越下屋敷遺跡 大村湯福遺跡 鬼木鉾立遺跡』		九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告21

表 豊前市内埋蔵文化財関係発掘調査報告書一覧（3）

発行年	書 名	副書名	著者・発行元	備 考
2015	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-22- 塔田琵琶田遺跡第2次』	福岡県豊前市久路土所在遺跡の調査	九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告22
2016	『久路土下川辺遺跡・久路土日中遺跡』	県営農村活性化住環境整備事業 黒土西部第二地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第38集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書X X
2016	『大村シトキ田遺跡・鬼木中浄坊遺跡・鳥越湯福山遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第39集／東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ
2016	『塔田琵琶田遺跡第3・5次 塔田五反田遺跡 塔田キカス遺跡第2次』 上巻（本文編）・下巻（図版編）	一福岡県豊前市塔田・久路土所在遺跡の調査一	九州歴史資料館	福岡県文化財調査報告書第252集／県道犀川豊前線バイパス建設関係埋蔵文化財調査報告第2集
2016	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-24- 時未遺跡第1・2次 永久笠田遺跡第2次』	福岡県豊前市永久所在遺跡の調査	九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告24
2016	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-25- 西ノ原遺跡第3・4次 大西遺跡第4次』	福岡県豊前市所在遺跡の調査	九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告25
2016	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-26- 塔田琵琶田遺跡第4次』（本文編）（図版編）	一福岡県豊前市久路土所在遺跡の調査一	九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告26
2016	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告-27- 塔田琵琶田遺跡第6次』	一福岡県豊前市久路土所在遺跡の調査一	九州歴史資料館	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告27
2017	『中村ヒバル遺跡』	県営経営体育成基盤整備事業角田中部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第40集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書X XI
2018	『中村屋敷田遺跡・松江炭山遺跡』		豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第41集／県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書X XII
2018	『岸井野入遺跡・久路土門田遺跡 付宇島鉄道軌道敷』	県営農村総合整備事業豊前地区（黒土北部工区）土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊前市教育委員会	豊前市文化財報告書第42集

表 豊前市の指定文化財一覧

(平成 30 年 (2018) 10 月 1 日現在)

	指定種目	文化財の名称	員数	指定年月日	所在地	所有者
国指定・選定	1 国宝(考古)	銅板法華経・銅管	33枚 1管	明治39. 4. 14 昭和28. 11. 14	太宰府市大字石坂4-7-2 九州国立博物館	国玉神社
	2 国指定重要文化財(考古)	豊前市求菩提山経塚出土品	一括	昭和53. 6. 15	大字鳥井畑247 求菩提資料館	福岡県
	3 国指定重要文化財(彫刻)	木造千手観音立像	1躯	明治39. 4. 14	大字挟間 千手観音堂	千手観音保存会
	4 国指定天然記念物	犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地	群生	昭和40. 6. 4	大字犬ヶ岳	農林省(現農水省)
	5 国指定史跡	求菩提山	3地区	平成13. 8. 13	大字求菩提121-1ほか	国玉神社ほか
					大字岩屋85-2ほか	岩洞窟ほか
					大字山内991 如法寺境内	如法寺ほか
	6 国選定重要文化的景観	求菩提の農村景観	1地区	平成24. 9. 19	大字求菩提1ほか、鳥井畑122ほか	豊前市・福岡県ほか
	7 国指定重要無形民俗文化財	豊前神楽 (豊前市の岩戸神楽)	6団体	平成28. 3. 2	大字岩屋1214-1 七社神社	岩屋神楽講
					大字山内144 嘯吹八幡神社	山内神楽講
					大字久路土996 石清水八幡神社	黒土神楽講
					大字三毛門306 春日神社	三毛門神楽講
					大字四郎丸256 大富神社	大村神楽講
					大字中村567 角田八幡神社	中村神楽保存会
県指定	8 県指定有形文化財(彫刻)	木造金剛力士立像	1対	昭和50. 8. 14	大字山内991 如法寺境内	如法寺
	9 県指定有形文化財(書籍)	求菩提山文書	74通	昭和46. 11. 16	大字馬井畑247 求菩提資料館	国玉神社
	10 県指定有形文化財(考古)	如法寺の石塔群	一括	昭和43. 2. 3	大字山内991 如法寺境内	如法寺
	11 県指定有形民俗文化財	大富神社の棟札	11枚	昭和31. 7. 28	大字四郎丸256 大富神社	大富神社
	12 県指定有形民俗文化財	宇佐神宮の杣始めの掛札および箱	1口	昭和31. 7. 28	大字下川底 白山神社境内	白山神社
	13 県指定有形民俗文化財	盲僧琵琶(ささびわ、付属品・文献1冊)	一括	昭和31. 7. 21	大字鳥井畑247 求菩提資料館	個人
	14 県指定有形民俗文化財	求菩提山修験道遺品	一括	昭和48. 4. 19	大字鳥井畑247 求菩提資料館	求菩提資料館
	15 県指定無形民俗文化財	山田の感応楽	1団体	昭和51. 4. 24	大字四郎丸256 大富神社	大富神社
	16 県指定無形民俗文化財	大富神社神幸祭(八屋祇園)	1団体	昭和51. 4. 24	大字四郎丸256 大富神社	大富神社
	17 県指定無形民俗文化財	求菩提山のお田植祭(求菩提山松会)	1団体	昭和51. 4. 24	大字求菩提 国玉神社	国玉神社
	18 県指定史跡	黒部古墳群	3基	昭和55. 3. 1	大字松江	豊前市
	19 県指定史跡	蔵春園(恒遠塾跡)	1ヶ所	昭和31. 7. 28	大字薬師寺570	個人
	20 県指定天然記念物	大河内の広葉杉	1本	昭和31. 7. 28	大字大河内1923	個人
	21 県指定天然記念物	求菩提のヒメシャガ	群生	昭和43. 2. 3	大字求菩提求菩提山	豊前市
	22 県指定天然記念物	求菩提のボダイジュ	1本	昭和43. 2. 3	大字求菩提 国玉神社境内	国玉神社
	23 県指定天然記念物	白山神社の大樟	1本	昭和31. 7. 28	大字下川底 白山神社境内	白山神社
	24 県指定天然記念物	須佐神社の大樟	1本	昭和31. 7. 28	大字下河内1070 須佐神社境内	須佐神社
市指定	25 市指定有形文化財(彫刻)	木造不動明王像及び脇侍二童子像	3躯	昭和59. 11. 22	大字畑 猛勇神社境内	猛勇神社
	26 市指定有形文化財(彫刻)	木造不動明王像	1躯	昭和59. 11. 22	大字挟間 千手観音堂	千手観音保存会

	指定種目	文化財の名称	員数	指定年月日	所在地	所有者
市指定	27 市指定有形文化財(彫刻)	如意輪観音像	1軀	昭和59. 11. 22	大字山内991 如法寺境内	如法寺
	28 市指定有形文化財(彫刻)	木造地藏菩薩像	1軀	昭和59. 11. 22	大字岩屋295-1	個人
	29 市指定有形文化財(建造物)	覚魔社 社殿	1棟	平成3. 5. 10	大字鳥井畑597 大山祇神社境内	大山祇神社
	30 市指定有形文化財(彫刻)	白山神社石造如来形座像(残欠)	1軀	平成8. 7. 11	大字下川底 白山神社境内	白山神社
	31 市指定有形文化財(歴史・書籍)	如法寺の扁額及び即非画像	4点	平成10. 2. 13	大字山内991 如法寺境内	如法寺
	32 市指定有形文化財(歴史)	蔵春園関係資料 〃 (追加指定)	28点 1649点	平成10. 2. 13 平成14. 2. 12	大字薬師寺570	個人
	33 市指定有形文化財(古文書)	矢野家の文書	197点	平成11. 6. 21	大字久路土873-3	個人
	34 市指定有形文化財(考古)	鬼木四反田遺跡及び関連遺跡出土青銅器	6点	平成14. 2. 12	大字吉木955	豊前市
	35 市指定有形文化財(考古)	黒部古墳群出土遺物	50点	平成14. 2. 12	大字吉木955	豊前市
	36 市指定有形文化財(建造物)	日吉神社本殿	1棟	平成14. 2. 12	大字大河内471-1	日吉神社
	37 市指定有形文化財(絵画)	浄圓寺絹本阿弥陀来迎図	1幅	平成14. 2. 12	大字松江404	浄圓寺
	38 市指定有形文化財(歴史)	上毛・築城の郡界石	1基	平成14. 2. 12	大字四郎丸1307	豊前市
	39 市指定有形文化財(絵画)	石清水八幡神社歌仙板絵馬	8枚	平成14. 3. 8	大字久路土996 石清水八幡神社	石清水八幡神社
	40 市指定有形文化財(歴史)	辛島家宇島築港関係資料	80点	平成18. 3. 9	大字鳥井畑247 求菩提資料館	豊前市
	41 市指定有形文化財(古文書)	津野田文書	14点	平成25. 12. 3	大字鳥井畑247 求菩提資料館	豊前市
	42 市指定有形文化財(絵画)	別府一九郎寄進絵図	3点	平成25. 12. 3	大字山内991 如法寺	如法寺
	43 市指定有形文化財(絵画)	天狗曼荼羅絵図	1点	平成25. 12. 3	大字鳥井畑247 求菩提資料館	求菩提資料館
	44 市指定有形民俗文化財(彫刻)	角田八幡神社棟札	10枚	昭和59. 11. 22	大字鳥井畑247 求菩提資料館	角田八幡神社
	45 市指定有形文化財	築上新聞・築上産業新聞等 昭和期刊行郷土資料	661点	平成30. 7. 9	大字岸井201番地	築上印刷有限会社
	46 市指定無形民俗文化財	角田八幡神社の豊前楽	1団体	平成14. 2. 12	大字中村567 角田八幡神社	角田八幡神社
	47 市指定無形民俗文化財	畑のどんと焼き	1団体	平成14. 2. 12	大字畑	畑地区
	48 市指定無形民俗文化財	厳島神社の百手祭	1団体	平成16. 3. 9	大字八屋2445 厳島神社	大富神社(末社厳島神社)
	49 市指定無形民俗文化財	宇島祇園	1団体	平成17. 3. 8	大字宇島70-1 宇島神社境内	宇島祇園保存会
	50 市指定天然記念物	千手観音堂「乳の霊水」	1箇所	昭和60. 3. 20	大字挟間 千手観音堂	千手観音保存会
	51 市指定天然記念物	水神社「冷泉」	1箇所	昭和60. 3. 20	大字畑701 水神社境内	水神社
	52 市指定天然記念物	如法寺「写経水」	1箇所	昭和60. 3. 20	大字山内991 如法寺境内	如法寺
	53 市指定天然記念物	水神社大樟	1本	昭和63. 4. 11	大字畑701 水神社境内	水神社
	54 市指定天然記念物	高橋家の豊後ウメ	1本	平成11. 6. 21	大字久路土893	個人
	55 市指定天然記念物	轟のフジ	3株	平成11. 6. 21	大字上川底貴船神社境内	貴船神社
	56 市指定天然記念物	矢野家のモッコク(木斛)	1本	平成14. 2. 12	大字久路土873-1	個人
	57 市指定天然記念物	求菩提山のクワ(桑)	4本	平成14. 2. 12	大字求菩提283-2	個人
	58 市指定天然記念物	鬼木の大神	1本	平成18. 3. 9	大字鬼木273	鬼木地区
	59 市指定天然記念物	三毛門カボチャ	1種	平成30. 7. 9	大字三毛門747-2	三毛門南瓜保存会
	60 市指定史跡	黒峰尾古墳群	4基	昭和63. 4. 11	大字松江1084	豊前市
	61 市指定史跡	平原横穴墓群	19基	昭和63. 4. 11	大字川内3219、3233-1、3233-2	個人



銅板法華經・銅篋（国宝）



求菩提山経塚出土品（国指定重要文化財）



豊前神楽（国指定重要無形民俗文化財）



求菩提山（国指定史跡）



木造金剛力士像（如法寺）（県指定有形文化財）



如法寺の石塔群（県指定有形文化財）



盲僧琵琶（ささびわ付属品附文献1冊）
（県指定有形民俗文化財）



宇佐神宮の杣始めの掛札及び箱一口
（県指定有形民俗文化財）



蔵春園（恒遠塾跡）（県指定史跡）



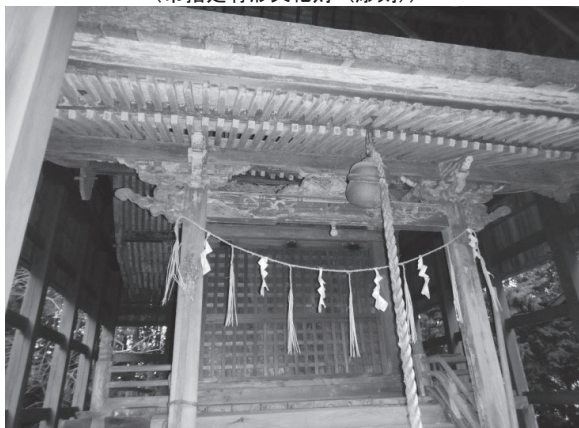
白山神社の大樟（県指定天然記念物）



木造不動明王座像及脇侍二童子立像
（市指定有形文化財（彫刻））



鬼木四反田遺跡及び関連遺跡出土青銅器
（市指定有形文化財物（考古））



日吉神社本殿（市指定有形文化財）



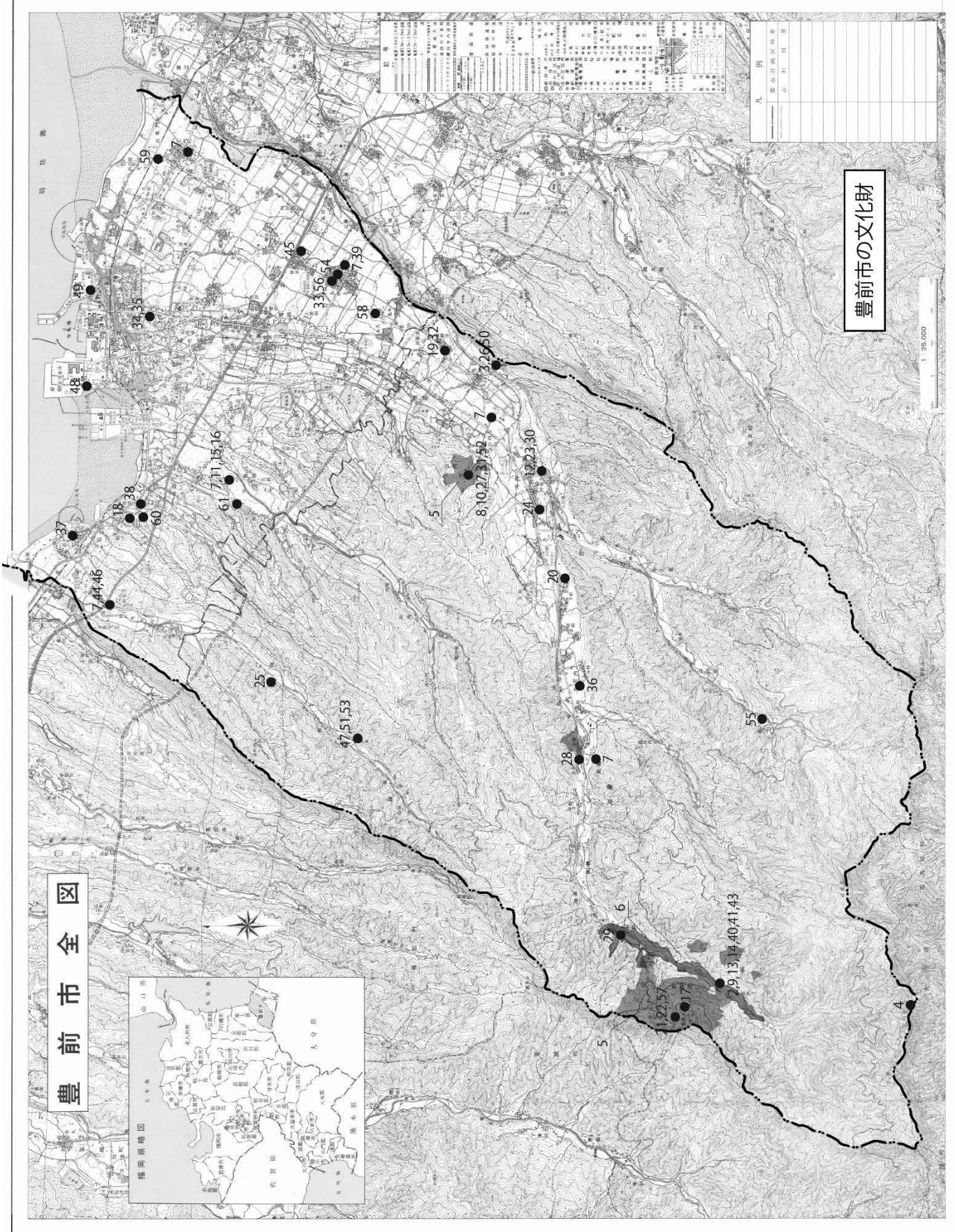
畑のどんと焼き（市指定無形民俗文化財）



水神社の冷泉（市指定天然記念物）



如法寺「写経水」（市指定天然記念物）



3. 種類別文化財

(1) 神社

市全体では76社の神社があります。八屋地区、山田地区が11社と最も多く、次いで角田地区の10社となり、最も少ない地区は黒土地区の2社となっています。

元無格社が最も多く41社、元村社24、不明は5社です。元郷社は以下の5社、角田八幡神社（中村）、沓川神社（沓川）、石清水八幡神社（久路土）、嘯吹八幡神社（山内）、国玉神社（求菩提）であり、元県社は大富神社（四郎丸）の1社となっています。

求菩提山の国玉神社中宮は、かつて求菩提山護国寺であり、求菩提山信仰の中心となった場所で、境内には鬼神社があります。関連する指定文化財は5件と最も多く、次いで、大富神社、白山神社が3件となっています。

明治初期、小倉新田藩主・小笠原貞正は千束藩知事に任命され、その陣屋が建設され旭城となりましたが、1年余りで廃城となり、その場所は千束八幡神社となっています。

指定文化財関連神社

神社名	所在地	関連する指定文化財
国玉神社	求菩提	銅板法華経・銅筥、求菩提山、求菩提山文書、求菩提のボダイジュ、求菩提山のお田植祭り
大富神社	四郎丸	大富神社の棟札、山田の感応楽、大富神社神幸祭（八屋祇園）
白山神社	下川底	宇佐神宮の杣始めの掛札および箱、白山神社の大樟、白山神社石造如来形座像、
角田八幡神社	中村	角田八幡神社棟札、角田八幡神社豊前楽
巖島神社	八屋	巖島神社の百手祭
宇島神社	宇島	宇島祇園
水神社	畑	水神社の冷泉、水神社の大樟
猛勇神社	畑	木造不動明王像及び脇侍二童子像
須佐神社	下川底	須佐神社の大樟
貴船神社	上川底	轟のフジ
日吉神社	大河内	日吉神社本殿
大山祇神社	鳥井畑	覚魔社社殿



覚魔社 社殿（鳥井畑）



日吉神社（大河内）



大富神社（四郎丸）



石清水八幡神社（久路土）



嘯吹八幡神社（山内）



水神社（畑）



千束八幡神社（千束）



須佐神社（下河内）

表 豊前市内の神社一覧

	名称	社格	所在地	祭神	主な祭儀日
八屋地区	1 厳島神社	元無格社	八屋（汐入）	市杵島姫命・田心姫命・湍津姫命・豊玉姫命	9月5日
	2 四公神社	元無格社	八屋（汐入）	猿田彦神	7月10日、12月10日
	3 四公神社	元無格社	八屋（浦町）	猿田彦神	12月10日
	4 塞神社	元無格社	八屋（新開）	八衢彦・八衢姫・久那斗	無祭日
	5 菅原神社	元無格社	八屋（東光山）	菅原道真・須佐之男命・市杵島姫命・大鷦鷯命・闇靁神	10月25日
	6 楡八幡宮		八屋（東八幡町）	事代主神・（仁徳天皇）	10月24日、12月3日
	7 琴牧神社	元無格社	大村（西丸尾）	大物主神・崇徳天皇	12月10日
	8 住吉神社	元無格社	大村（大竜寺）	表筒男神	7月7日
	9 白山神社	元無格社	大村（慈眼寺）	伊弉諾尊・伊弉冉尊・大国主神・大山祇神	9月29日
	10 甲神社	元無格社	大村（横谷）	罔象女神	4月7日、7月7日、12月7日
宇島地区	11 宇島神社	元無格社	宇島（鶴島）	杉生十右衛門・大物主神・崇徳天皇	5月3、4、5日、10月23日
	12 恵比須神社		宇島（周防町）	事代主神	5月5日
	13 堂山神社		宇島（周防町）	事代主神	5月4、5日
	14 小笠原神社		宇島（日の出町）	藩主のお墨付きと伝えられる	5月4日
	15 足切神社	元村社	赤熊（足切）	級長津彦神・級長津比売神・罔象女神・高靁神・闇靁神	4月第3土曜日、10月20日
角田地区	16 恵比須神社	元無格社	松江（折戸）	八重事代主神・大山祇神	5月19日、20日、10月12日
	17 貴船神社	元無格社	畠中（安延）	高靁神	5月19日、20日、10月12日
	18 七社神社	元無格社	松江（江ノ口）	別雷神・宇迦之御魂神・須佐之男命・大山祇神・高靁神・少毘古那神・児屋根命	5月19日、20日、10月12日
	19 角田八幡神社	元郷社	中村（小畑）	応神天皇・神功皇后・比咩大神・仲哀天皇・仁徳天皇	5月19日、20日、10月25、26日
	20 雲見神社	元無格社	馬場（毘砂門）	磐長昆売神・大山祇神・高靁神	5月19日、20日、10月2日
	21 豊国玉神社	元無格社	馬場（湯ノ川内）	国魂神・保食神	5月19日、20日、10月25、26日
	22 塞神社	元無格社	畑（御手洗）	猿田彦神	4月19日、11月13日
	23 猛勇神社	元無格社	畑（原井）	大山祇神・素盞鳴尊	4月19日、11月13日
	24 水神社	元無格社	畑（湯出河原）	水分神・高靁神	4月19日、11月13日
	25 八幡神社	元無格社	畑（山谷）	応神天皇・高靁神・大山祇神	4月19日、11月13日
山田地区	26 大歳神社	元無格社	四郎丸（歳ノ神）	大歳神・御歳神・若歳神・稻倉魂神・水波売神	12月7日
	27 水神社	元無格社	四郎丸（杉ヶ谷）	美津波売神	5月5日
	28 五社神社	元無格社	四郎丸（湯越）	菅原神・事代主神・高靁神・市杵島姫命・大己貴神・少那彦神	9月2日
	29 蛭子神社	元無格社	四郎丸（今町）	事代主神	12月1日
	30 四公神社	元無格社	四郎丸	猿田彦神・恵比寿神	7月10日、12月10日
	31 貴船神社	元無格社	四郎丸（荻田）	高靁神・市杵島姫命	12月6日
	32 大己貴神社	元無格社	四郎丸（清水）	大己貴神・少彦名神	12月6日
	33 高木神社	元無格社	四郎丸（高野）	高皇産靈尊	3月5日
	34 大富神社	元県社	四郎丸（甫起山）	田心姫命・湍津姫命・市杵島姫命・応神天皇・仲哀天皇・神功皇后・表筒男命・中筒男命・底筒男命・斎主神	4月30日、5月1日、10月19日
	35 須佐神社	元無格社	鳥越（上ノ段）	大己貴神・須佐之男命・稲田姫神	9月1日
	36 大祖神社	元無格社	川内（中畑）	天御中主神・高皇神・素盞鳴尊・少名彦命・稻倉魂神・菅原神・大山祇神・高靁神・猿田彦神・豊受姫神・岐ノ神・鉦女神	4月15日

※ 6楡八幡宮は若宮八幡神社・恵比寿神社を合祀している

		名称	社格	所在地	祭神	主な祭儀日
三毛門地区	37	清水神社	元村社	清水町（木ノ下）	高禰神・闇禰神・罔象女神・天御柱神・国御柱神・事代主神	6月下旬から7月上旬の間
	38	沓川神社	元郷社	沓川（下ノ田）	別雷神・伊弉諾尊・天児屋根命・表筒之男神・中筒之男神・中筒之男神・底筒之男神	5月5日、8月15日
	39	春日神社	元村社	久松（輪田）	武甕槌神・経津主神・天児屋根命	—
	40	春日神社	元村社	恒富（宮ノ本）	武甕槌神・経津主神・天児屋根命	6月下旬から7月上旬の間
	41	貴船神社	元村社	市丸（居屋敷）	高禰神	6月下旬から7月上旬の間
	42	貴船神社	元村社	三楽（八反田）	高禰神	4月第4土日
	43	春日神社	元村社	三毛門（宮ノ本）	大歳神・宇迦之御魂神・素盞鳴尊・大市姫神・豊日別神・伊弉諾尊・天照大神・武甕槌神・経津主神・天児屋根命・高禰神・闇禰神・罔象女神	4月29日
黒土地区	44	石清水八幡神社	元郷社	久路土（白旗森）	八幡大神・息長足息姫尊・大鷦鷯尊	5月2日、5月3日
	45	貴船神社	元村社	小石原		
千束地区	46	事代主神社	元無格社	今市（屋敷）	事代主神	5月15日、12月3日
	47	乙女八幡神社	元村社	吉木（竿）	応神天皇・神功皇后・仲哀天皇	4月28日、10月9日
	48	貴船神社	元村社	吉木（熊ノ本）	高禰神・武甕槌神・素盞鳴尊・大山祇神	4月28日、10月9日
	49	千束八幡神社	元村社	千束	八幡大神・櫛石窓神・豊石窓神・仁徳天皇・高禰神・闇禰神	4月29日、10月16日
	50	貴船神社	元無格社	荒堀（田淵）	高禰神・闇禰神	11月24日
横武地区	51	大山祇神社	元無格社	青畑（殿山）	大山祇神・木花開耶姫神・事代主神・豊受姫命	12月1日
	52	大西神社	元村社	大西（蛭谷）	高禰神・闇禰神・天御中主神	4月15日、10月15日
	53	貴船神社	元村社	永久（丸林）	高禰神・大己貴命・天徳日命・罔象女神	4月21日、22日、10月21日、22日
	54	深山八幡神社	元村社	河原田（友浦）	応神天皇・仲哀天皇・神功皇后	4月23日、10月23日
	55	宗像神社	元村社	薬師寺（塚原）	田心姫・湍津姫命・市杵島姫命・神功皇后・素盞鳴尊	5月8日、10月19日
	56	貴船神社	元村社	挟間（山内）	高禰神・闇禰神・速秋津彦神・速秋津姫神・大田種子・保食神・素盞鳴尊	5月12日、9月23日、10月17日
	57	道祖神社	元無格社	才尾（屋敷）	猿田彦神	4月14日、15日、10月7日、8日
	58	祇園社	元無格社	山内（園木田）	素盞鳴尊	7月24日
	59	嘯吹八幡神社	元郷社	山内（田中）	応神天皇・神功皇后・仲哀天皇・天児屋根命・武内宿禰・速秋津彦神	4月14日、15日、10月12日、13日、11月27日（山人走り神事）
合河地区	60	須佐神社	元無格社	下河内（湯ノ本）	素盞鳴尊	4月14日、15日、11月26日、27日
	61	合八幡神社	元村社	天和（宮山）	応神天皇・神功皇后・仲哀天皇	4月15日、12月7日
	62	貴船神社	元村社	下川底（城山）	高禰神・闇禰神・大山祇神・事代主神	3月15日、10月10日
	63	貴船神社	元村社	中川底（稗田）	高禰神・闇禰神・応神天皇・素盞鳴尊	4月15日、10月14日
	64	貴船神社	元無格社	中川底（松尾川内）	大己貴命・大山祇神・少彦名命	4月15日、10月16日
	65	大山祇神社	元無格社	上川底（大宮司）	大山祇神・高禰神・闇禰神	4月15日、10月15日
	66	貴船神社	元村社	上川底（長迫）	高禰神・闇禰神・句句迺馳神・雷神・倉稲魂神	4月15日、10月15日
	67	貴船神社	元無格社	上川底（神田）	高禰神・闇禰神・宇迦之御魂神・句句迺智神・別雷神	4月15日、10月15日
岩屋地区	68	日吉神社	元村社	大河内（宮の前）	大己貴尊・国常立命・惶根命	4月12日、13日、10月初申の日と翌日
	69	大山祇神社	元無格社	岩屋（奥畑）	大山祇神・雷神	4月27日、10月17日
	70	七社神社	元村社	岩屋	国常立命・大宮姫・宇迦之御魂神・大山祇神・少彦名神・大己貴神・事代主神	4月26日、27日、10月18日
	71	須佐神社	元無格社	岩屋（上の免）	素盞鳴尊	4月26日、10月26日
	72	大山祇神社	元無格社	篠瀬（戸符）	大山祇神・金山彦神・埴安神	5月4日、10月13日
	73	須佐神社	元村社	篠瀬（古屋敷）	素盞鳴尊・大山祇神	5月3日、8月19日、10月12日
	74	大山祇神社	元村社	鳥井畑（居屋敷）	大山祇神	5月5日、6月17日、10月8日
	75	国玉神社	元郷社	求菩提（岩岳山）	顕国霊神・伊弉諾命・伊弉冉命	3月29日お田植祭り、9月9日

